

おしゃべり工房



令和元年11月20日(水)、牧山市民センターにて、「第7回おしゃべり工房〜ざっくばらんにESD交流会」を開催しました。森義明さん(牧山シニアクラス会長)、渡邊満枝さん(牧山まちづくり協議会副会長)、森山秀文さん(牧山市民センター館長)をパネラーに迎え、戸畑祇園大山笠の話の伺いました。森会長は青年団設立から家族総出で戸畑祇園大山笠に関わり、山を担ぐ中学生に一生懸命に指導され、中学が荒れた時期は、地元の大人と一緒に学校の立て直しに協力したそうです。山笠という文化の継承を軸に、子ども達は体験を通して成長し、地域への愛着を育んできたと感じました。そして、渡邊副会長は日本特有の「祭りに女性は参加できない」というジェンダー問題に早期に取り組み、女性参加の礎を築き、北九州らしい時代の先駆者として活躍されてきました。また、森山館長からは、地域連携の理想の形である貴重な話を伺うことができ、森山館長の陰ながらのバックアップが、市民センターに大きな役割を果たしたことが分かる内容でした。

人材育成・発掘プロジェクト 藤川 太栄子



未来パレットだより

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語 Education for Sustainable Development の頭文字をとったものです。

本・絵本で伝えよう「北九州SDGs図書館大作戦!」スタート!

北九州市立子ども図書館が平成30年12月に開館して1年が経ちました。活字離れやネット依存が叫ばれる今、子ども図書館は子どもの読書活動の推進拠点として、子どもたちの学びの場・心の居場所・国際交流の場など多様な役割を担っています。この図書館の特色は、国内外の児童・幼児向けの本約35,000冊に加え、世界104ヶ国90言語の絵本も揃った、まさにSDGs未来都市北九州の顔ともいべき施設です。

北九州ESD協議会では、今後、本や絵本を通してSDGsの普及を目指す、名付けて「SDGs図書館大作戦」を計画しています。そこで、子ども図書館の古林節子館長に、SDGsを伝えるための「本」の役割について伺いました。



2019 北九州SDGs未来都市アワード受賞者発表

「2019 北九州SDGs未来都市アワード」は、これまでの「ESD表彰」にSDGsの賞を加えて再編したものです。今年度の受賞者は以下のとおりです。

小学校・中学校		
賞の種類	活動名	団体名
SDGs大賞	econnect project (エコネクト プロジェクト)	econnect project
ESD賞	主体的に学び、持続可能な社会を創造できる児童の育成を目指した環境教育	北九州市立曾根東小学校
SDGs賞	総合的な学習の時間「藍島G⑤(あいしまごー)」	北九州市立藍島小学校
SDGs賞	中井グローバルプロジェクト	北九州市立中井小学校
奨励賞	「守ろう、マイリバー 大蔵川」	北九州市立祝町小学校

高等学校等		
賞の種類	活動名	団体名
SDGs大賞	地域防災力向上のための防災・減災意識啓発プラン	明治学園高等学校「自然災害と防災・減災」チーム
ESD賞	広谷湿原保全プロジェクト	東筑紫学園高等学校理科部
奨励賞	SDGs地域企業連携プロジェクト	敬愛高等学校

大学		
賞の種類	活動名	団体名
SDGs大賞	ポイ捨てごみアート	にじのはしプロジェクト

一般		
賞の種類	活動名	団体名
SDGs大賞	北九州市における子どもの貧困の連鎖と食品ロスの根本的解決に向けた活動	特定非営利活動法人フードバンク北九州ライファゲイン
ESD賞	魚町商店街SDGs商店街宣言活動	魚町商店街振興組合
SDGs賞	「生涯現役」、「生涯学習」を心掛ける60歳以上の年長者の「自主的な学びの会」	ESD推進いきいきシニア塾
SDGs賞	身近な生物多様性問題の「見える化」と、自然との共生を目指す連携・協働コミュニケーションの構築	NPO法人北九州・魚部
SDGs賞	東田サステナブル国際会議(Higashida Conference for Sustainability)	東田サステナブル国際会議実行委員会
SDGs賞	里山保全活動	北九州里山トラスト会議
奨励賞	心の根っこを育むグリーンカード!	学校法人 本城学園 認定こども園 本城東幼稚園

企業部門		
賞の種類	活動名	団体名
ESD賞	北九州市を中核とした食品循環資源の地域循環共生圏構築と普及・啓発活動	楽しい 株式会社
SDGs賞	住宅再生事業で守る、地球と子供たちの未来	有限会社 ひまわり
SDGs賞	情熱・先端Mission-E(高校生向けエンジニアリング教育プログラム)	日鉄エンジニアリング株式会社
SDGs賞	国内初の官民一体となった「古着リサイクル事業」の構築	株式会社 エヌシー・エス
SDGs賞	枝光お出かけ交通	株式会社 光タクシー
SDGs賞	ギラヴァンツオープンマインドプログラム(GOP)	株式会社 ギラヴァンツ北九州

1 SDGsを伝えるために、本や絵本、図書館はどんな役割を果たすことができますか?

SDGsを学び、伝える場としての図書館の役割は2つあると考えています。

①SDGsそのものについて、図書館の本で調べることができる。

②本の中に込められているSDGsのテーマについて考えあったり、伝えるのに有効。

2 古林館長は中学校の国語の先生だったと伺っていますが、教師の視点からSDGsと図書館の関係についての考えを聞かせてください。

学校図書館は子どもたちにとって、学習の情報センターであり、安らぎの場です。本との出会いは、人生の中で大切な出会い。今、目の前の子どもたちに、どんな本を手渡してあげればよいのか、それを知っているのは子どもたちと日々向き合っている先生方だと思います。しかし、先生方も忙しく、どの本を手渡せば良いのか分からないという声も聞きます。

現在北九州市では学校図書館職員が中学校区に1人配置され、各小中学校には、子どもたちに読み聞かせや本の素晴らしさを伝えてくださるボランティアのブックヘルパーさんもおられます。これらの方達の読み聞かせの研修や、実践発表などを通し市全体でSDGs推進に取り組みたいと思っています。

また、地域のシビックプライドを育み、忘れてはならない歴史を伝える地元の本を紹介することも重要です。



古林館長

やってみよう!「SDGs図書館大作戦」ワークショップ

1 SDGsの願いがこもっていると考えるイチオシの本を各自で持ってくる。(図書館の本でも自分の本でもOK)

2 SDGsについて学び、イチオシの本には17項目の中でどんな願いが込められているかを考える。

3 用意したブックカードに、イチオシの本の表紙と、17のアイコンの中から当てはまるものをはり、ブックトークを書く。

4 完成したらみんなで見せ合い、語り合い、分かち合う。

▲西門市民センターでの取組



SDGsフェスティバルIN小倉エコライフステージの様子

今年も西日本最大級の環境イベント「エコライフステージ2019」に出展しました。また、今年エコライフステージに合わせて「SDGsフェスティバルIN小倉」を船場広場(旧小倉ホテル跡地)にて企画し、北九州のユースが主体となってブース出展やステージイベントを開催しました。多くの来客者で賑わい、ESDの活動を広く知ってもらえる機会となりました。



▲エコライフステージではESD・SDGsを説明するブースを出展

北九州ESD・SDGs物語～ ①公害克服運動は、「中原の青い海」から始まった! 毛利昭子物語

北九州ESD協議会が2006年に誕生して、今年で15年目となりました。SDGsを地域で達成していくための人づくり、「ESD for 2030」が発表される中で、SDGs未来都市の源となった「女性たちが始めた公害克服運動」を掘り起こし、次世代に伝えるために北九州でのESD・SDGsの歴史を未来パレットに掲載していくことにしました。

公害を克服した北九州市では、2001年に「環境」をテーマにした北九州博覧祭が八幡製鐵発祥の地・東田地区で開催され、環境ミュージアムもオープンするなど、環境問題に対する市民意識が高まっていたが、それから約20年が経ち、公害克服運動を知る人も少なくなってきたのではないのでしょうか。

「子どもたちに青い空と青い海を」と願った女性たちは、どんな思いで公害と向き合ってきたのでしょうか。その思いを受け継ぐ北九州ESD協議会としての発信は、SDGsを実現していく大きなヒントになるはず。

戸畑区中原市民センターのエントランスに、「中原の海を愛する人たちによって」という大きな有田焼の陶版レリーフ（昭和56年設置）で描かれた松林と海の壁画が飾られています。この壁画を見れば、住宅密集地の中原地区が、かつては美しい松林と海岸だったという土地の記憶が伝わってきます。

壁画の設置に尽力したのは戸畑区婦人会協議会会長だった毛利昭子さん。北九州市における公害克服運動を始めた人です。なぜ毛利昭子さんは、松林と海岸の記憶を未来に伝えようとしたのか、中原婦人会の佐藤妙子会長と竹内明美さん、中原市民センター佐藤智美館長、環境学習課元課長であり北九州の環境学習を牽引してきた森本美鈴さんに話を伺いました。

「ほととぎす とばたの浦にしく波の しばしば君を見むよしもがも」と万葉集にも詠まれた中原海岸は、吉田初三郎の鳥瞰図にも描かれているように、白砂青松が続く海水浴場だったそうです。ところが、昭和11年に中原に火力発電所が造られることになり、松は切られ海は埋め立てられ6本柱の発電所が発電を始まりました。戦後の復興景気の中で、昭和25年には2本ボイラー増設された日本発送電(株)の発電所の煙突が、猛烈な煙と灰を降らせるようになると、洗濯物は干すたびに汚れ、健康を害する人が増えていきました。

発電所ができて10年を経て深刻な事態に気づいた毛利さんら中原婦人会の女性たちは、降灰のデーターを取るために、シーツやワイシャツを干して煙突との距離を測り、議論や集会を重ねます。婦人会の中には、発電所の幹部の奥さんたちもいましたが、子どもの健康が一番と、一緒に立ち上がり、戸畑市議会へ調査結果を持って働きかけます。これらの運動の結果、昭和26年、ついに中原と日明の発電所の煙突に当時の価格で9千万円という集塵機が取り付けられることとなります。また、戸畑区には、失ってしまった海の代わりに、子どもたちにより良い環境を造ってほしいと訴え、仙水児童プールや公園緑化整備なども実現していきます。市が九州工業大学に集塵計測を依頼するなど、産官民協働の取り組みの始まりともなるのです。

師範学校を卒業後、小学校教師を勤めていた毛利さんは、昭和20年に婦人参政権が女性に与えられた年に戸畑市の市会議員に立候補し、2度立候補して2度とも落選だったそうですが、女性の参画や子どもたちの環境問題に熱心だったのは、失われた海へ大きな喪失感に突き動かされていたのかもしれない。

森本さんは、中原の海の壁画の前で、毛利さんが語った言葉を書き留めておられます。

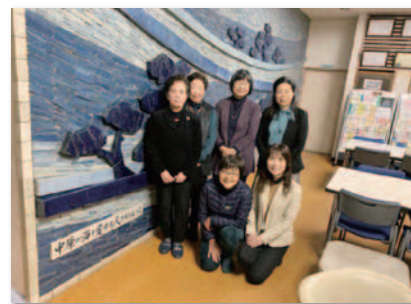
「自然を大切にするのは、主張とか権利とかというものではなく、哲学なのです。」



昭和8年ごろの鳥瞰図 吉田 初三郎氏画
戸畑市政10周年を機に作成されたもの(北九州市いのちのたび博物館提供)



戸畑区中原市民センターの陶版レリーフの壁画



中原市民センターの壁画の前で



学びのポイント

あなたは毛利さんの活動が、SDGsのどんな目標に当たるとおもいますか?
毛利さんの活動から、あなたはどんなことを伝えていきたいですか?

今回は中原婦人会の学びを受けて、立ち上がった三六婦人会の女性たちが、戸畑市の社会教育主事だった林栄代氏と始めた「青空が欲しい」の運動を振り返りたいと思います。
(文責 原賀いずみ)

参考文献

- 「公害のあゆみ」 戸畑区婦人会協議会
- 「女性市民運動による公害克服の歴史」 森本美鈴
- 「世論から生まれしもの～ストックホルムからの土産」 毛利昭子
- 「北九州の公害克服の歴史を動かした戸畑婦人会の活動」 神崎智子

